

# 踏み跡 <My Mountains>

奥秩父を念入りに歩いてきたが、雲取から三峰への稜線は歩き残した。数多くのハイカーが歩く尾根なので混雑する。混雑すると行きたくなくなってしまうので、行くのなら人が少ない冬が一番だろう、と思ってリストアップして残してあった。  
 また千葉に住むようになってからは交通の便があまり良くないせいか、青梅線を使う奥多摩、奥秩父へは足が遠のき、リストアップされたまま懸案事項になっていた。

平成4年2月10日  
 飛び石連休の間の月曜日、船橋駅の通勤ラッシュを横目で睨みながら6時53分発の特急あずさに乗車。  
 ラッシュの時間帯でも立川まで楽に早く行けるということで特急あずさを選んだ。  
 立川8時17分発奥多摩行。奥多摩に9時30分に到着。山登りでこの駅に降り立ったのはなんと19年ぶりになる。昭和48年、日原から雲取に登った時のこと。懐かしさも手伝ってバス待ちの一時間を使って付近を散歩。  
 バスは10時37分発、鴨沢西で下車11時20分。昼食をとって11時45分に行動開始。手帳に特にコメントは書いてなかったが、多分丹波行のバスではなかったため鴨沢西から歩き始めることになったのだと思う。



(本来ならばバス下車地点は「お祭」の筈)  
 お祭バス停12時ちょうど。ここから陽が当たらない谷間の寒々しい後山林道に入る。時々背中から細い日差しが送られてくるだけで、しかも見える景色も限られている。



塩沢橋13時30分、この辺から道路の凍結場所が目立ってきた。林道終点に車が5、6台駐車しているが、登山客のものだろうか。林道終点からは三条沢に沿ってゆっくり登って、三条の湯に15時05分に到着。(左写真)  
 本日の行程はここまで。まだ早いので一泊二食付き5,500円を払って、三条ダルミ方面へ往復一時間ほどの散歩。尾根の上に出て陽があたる所は風さえなければ春のようだが、一步谷間に下りると陽が入らず冷たく寒い雪と氷の世界。  
 小屋に戻って憧れの三条の湯を楽しみ夕食。部屋の名前は「飛龍」と書いてあった。二名の客が同室で、食事の後は雑談。寝る前に外に出てみると、頭上の樹間にオリオンを中心とした満天の星空。明日の天気もよさそうだ。

平成4年2月11日  
 6時半起床、天気は上々、すぐに朝食。手際良く身支度を整えて7時30分に出発。朝の空が晴れていると気も軽くなる。

## 踏み跡 <My Mountains>

三条ダルミ 9時45分、小休止。富士山と大菩薩が正面に見え、どの山も冬のいでたちで迫力ある展望だ。チョコレートを食べながらしばし眺めることに没頭する。



雪は腰の深さほどありはするが、トレールがきれいについていて歩きやすい。雲取山 10時45分。19年ぶりに来た頂上には新しい立派な避難小屋が建っていた。南アルプスが甲斐駒から聖岳以南の山までくっきりと見える。浅間山や日光の山も鮮やかで、さすが雲取山と言える眺め。(右写真：雲取山からの富士)腰をおろして軽食(みかんと東鳩オールレーズン)をとりながら眺めを楽しむ。11時25分に出発。ここからは進路を北にとって大ダワへの下り。途中雲取山荘に顔を出したら「三峰ロープウェイは運休中」と貼り紙があった。



芋ノ木ドッケ 12時30分。ここで長沢背稜への道を東に分けてさらに北上。ここから先は一度も歩いたことがない初体験の稜線だ。芋ノ木ドッケを過ぎると北面の積雪は1mを越えるようになった。

白岩山 13時ちょうど、鞍部の白岩小屋までもう少しがんばってから昼食とする。

白岩小屋 13時15分、昼食を兼ねた大休止。お湯を沸かしてポタージュスープ、ブドウパンにオイルサーディンの缶詰。



ゆっくり休んで出発は14時20分。

霧藻ヶ峰 15時25分。西側に大洞川の大きな谷を挟んでどっしりと構える巨大な和名倉山。その右の方に両神山も見えるが、巨大な和名倉山に圧倒されて大きく見えない。(上の写真：左=和名倉山 右=両神山)冬の山は16時を過ぎると日没との競争が始まる。暗く寒くなる前に人里に着かねば、の気持ちが頭をよぎり始め、頻りに腕時計を確かめながらの下り。

三峰神社 16時30分、ロープウェイが走っていればここで終わりになるところだが、まだもう一仕事。表参道を下って、大輪に17時40分に到着。

10分余の待ち時間で三峰口行のバスに乗ることができ、三峰口駅でもわずかな時間で電車に乗ることができた。こういうスムーズな流れは珍しい。

お花畑で秩父鉄道を下車し、西武池袋線に乗り換え。駅前でビールとラーメンで無事終了を祝し、土産に秩父ワインを購入。

19時46分発のレッドアローで熟睡し、池袋に21時11分に到着、自宅帰着は22時50分。

以上